

「学生による授業評価」に基づく  
授業報告書

2019（平成 31・令和元）年度

聖心女子大学

## 2019年度 授業評価の結果の総括

### 1. 調査方法と実施対象科目

2019年度の学生による授業評価は例年通り、各授業の終盤にマークシート方式あるいは自由記述方式等によって受講生に回答を求めた。マークシート方式の実施科目数は475科目であった。内訳は専任教員による授業が78科目（前期42科目、後期20科目、通年16科目）、非常勤講師による授業が397科目（非常勤 前期216科目、後期132科目、通年49科目）であった。

### 2. 質問内容

設問内容は次の通りである。

- Q1. この授業への出席率はどのくらいでしたか。
- Q2. この授業のために平均何時間程度、予習・復習をしましたか。
- Q3. 受講前からこの授業の内容に興味・関心があった。
- Q4. 総合的にみて、この授業に満足した。
- Q5. シラバスの記載内容は、この授業を受講するうえで役に立った。
- Q6. 教員の説明の仕方、話し方はわかりやすかった。
- Q7. 授業中に使う教材（テキスト・配布資料・映像など）は学習の役に立った。
- Q8. 毎回の授業内容の分量や速度は適切だった。
- Q9. 教員の授業運営（質問や発言の十分な機会、私語の注意など）は適切かつ公正だった。

Q1については、「すべて出席した、1～2度欠席したがほとんど出席した、3分の2程度出席した、3分の1程度出席した、ほとんど出席しなかった」の5段階で、Q2については「2時間以上、1～2時間、30分～1時間、30分以下、0分」の5段階で回答を求めた。その他の質問については、「よくあてはまる」から「まったくあてはまらない」までの5段階で評価してもらった。

### 3. 全体の結果概要

上記の各設問に対する選択肢への回答を、上記で示した順に5点から1点に換算し、その平均値をレーダーチャートによって示した。全体ではQ2の「予習・復習時間」以外の平均値が4を超えており、望ましい数値を示している。Q3の「受講前の関心の程度」はやや低い値であるが、最終的な満足度は高かったことから特に問題があるとは言えない。また、こうした傾向は従来と同様であり、本学の教育の質が高いレベルで維持されていることを示している。ただ、学生の予習・復習の時間については、各科目、平均して「30分～1時間」程度に留まっており、改善の余地はある。

尚、常勤と非常勤別、学科別、全学共通科目の種類別の集計も行ったが、「キリスト教学」「リーディング・オラル」でやや満足度が低めであるものの、とびぬけて大きな差は認められなかった。

#### 4. 各設問の回答内容

各設問別に選択肢の平均回答比率を見ると、次のような特徴が示された。

授業への出席は平均が「すべて出席」と「1, 2回の欠席」の間にあり、出席率は全体に高い水準にある(Q1)。予習や復習については、「1時間以上」との回答は5%程度であり、この数値からは十分な時間が確保されているとは言えない。ただし、設問においては「本やインターネットで調べるなども含む」と記されているものの、その基準は曖昧であり、親や友人との会話等での振り返りなども含め精査していく必要がある。その他の項目については回答の平均が4.0を超えており、特に、「教員の授業運営(質問や発言の十分な機会、私語の注意など)の適切さ」については4.5以上の評価が全体の6割強と高い(Q9)。また、「授業中に使う教材(テキスト・配布資料・映像など)は学習の役に立った(Q7)」「教員の説明の仕方、話し方はわかりやすかった(Q6)」「毎回の授業内容の分量や速度は適切だった(Q8)」なども4.5以上が5割弱を占めている。このように、授業の運営方法に関しては満足度が高い一方、「総合的にみて、この授業に満足した(Q4)」「シラバスの記載内容は、この授業を受講するうえで役に立った(Q5)」などの授業内容については、4.0~4.5の評価が多めで、満足度をさらに高める余地は残されている。

#### <全体(専任教員+非常勤講師)、専任教員、非常勤講師別>

- 1) 全体(専任教員+非常勤講師)
- 2) 専任教員全体
- 3) 非常勤講師全体

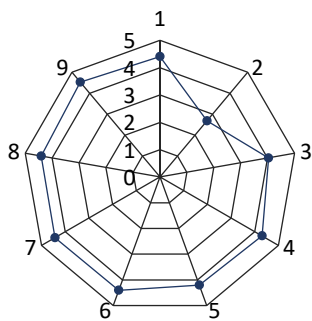
#### <学科・専攻別>

- 4) 英語英文学科
- 5) 日本語日文学科
- 6) 史学科
- 7) 人間関係学科
- 8) 国際交流学科
- 9) 哲学科
- 10) 教育学科(教育学専攻・初等教育学専攻)
- 11) 心理学科

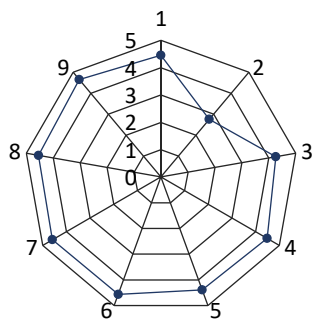
#### <授業種類別>

- 12) 基礎課程科目(基礎課程演習)
- 13) 全学共通科目(総合現代教養・情報活用演習)
- 14) 全学共通科目(ジェンダー学・ボランティア研究)
- 15) 全学共通科目(キリスト教学)
- 16) 全学共通科目(体育運動学 運動学を含む)

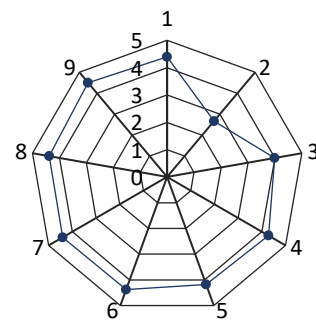
- 17) 全学共通科目 英文専攻以外第一外国語（リーディング・オラル）
- 18) 全学共通科目 英文専攻第一外国語（2年英語1・2年英作文）
- 19) 全学共通科目（1年第二外国語）
- 20) 全学共通科目（2年第二外国語）



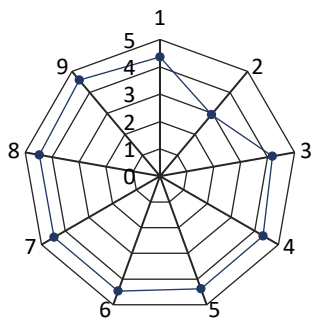
1) 【全体】(475 科目)



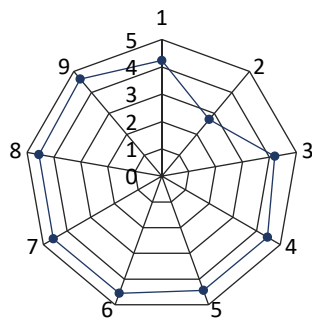
2) 【専任教員】(78 科目)



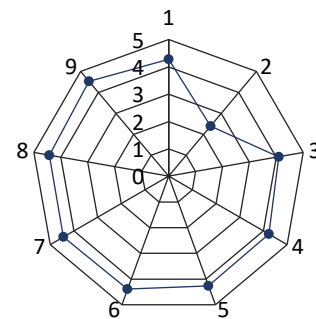
3) 【非常勤講師】(397 科目)



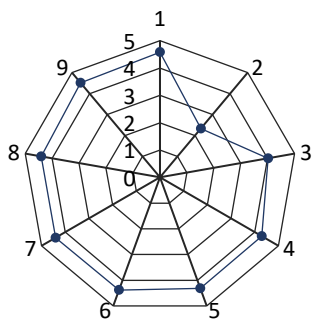
4) 【英文】(30 科目)



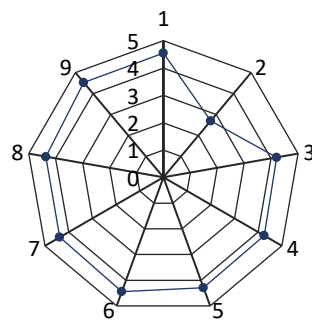
5) 【日文】(35 科目)



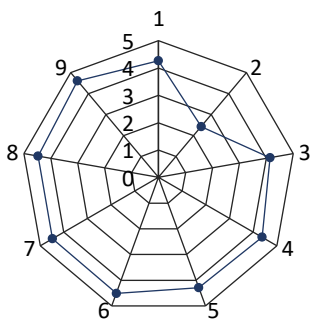
6) 【史学】(31 科目)



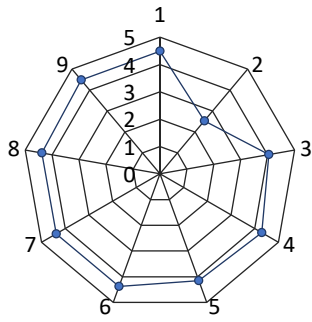
7) 【人間関係】(40 科目)



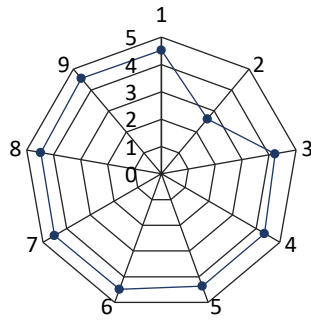
8) 【国際交流】(30 科目)



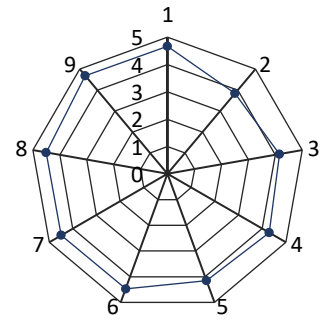
9) 【哲学】(18 科目)



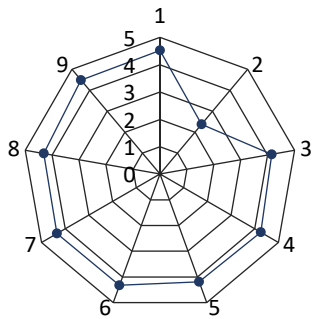
10) 【教育学】(56 科目)



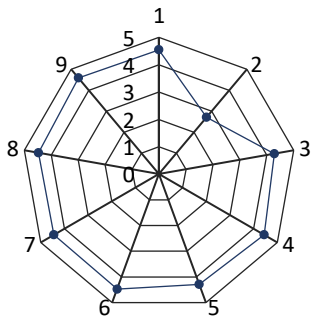
11) 【心理学】(31 科目)



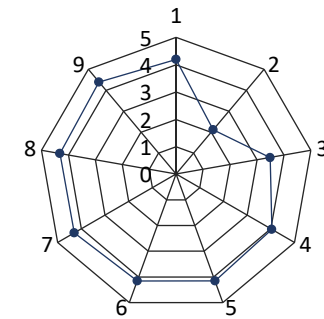
12) 【基礎課程演習】(3 科目)



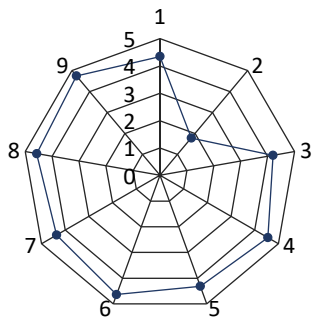
13) 【総合現代教養】  
【情報活用演習】  
(29 科目)



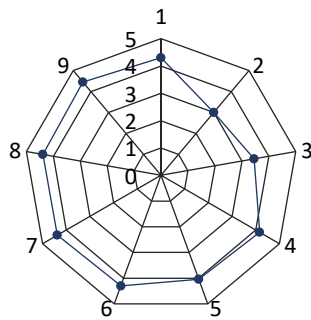
14) 【ジェンダー学】  
【ボランティア研究・グローバル共生】  
(10 科目)



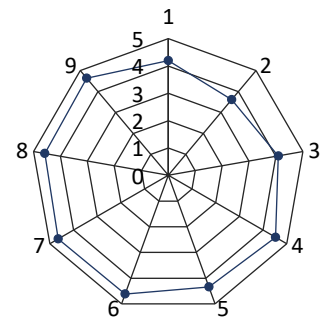
15) 【キリスト教学】  
(11 科目)



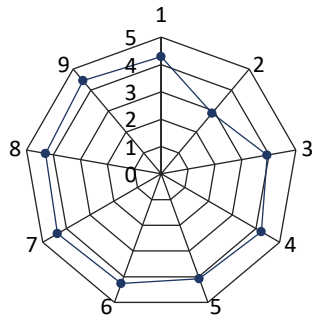
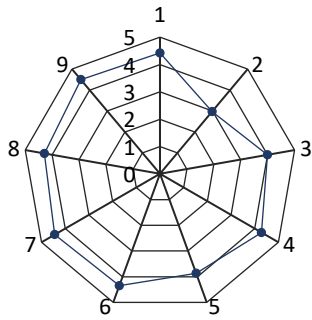
16) 【体育運動学・運動学】(10 科目)



17) 【リディング・カル】(39 科目)



18) 【英文専攻第一外国語】(17 科目)  
【Academic Reading・Academic Writing】

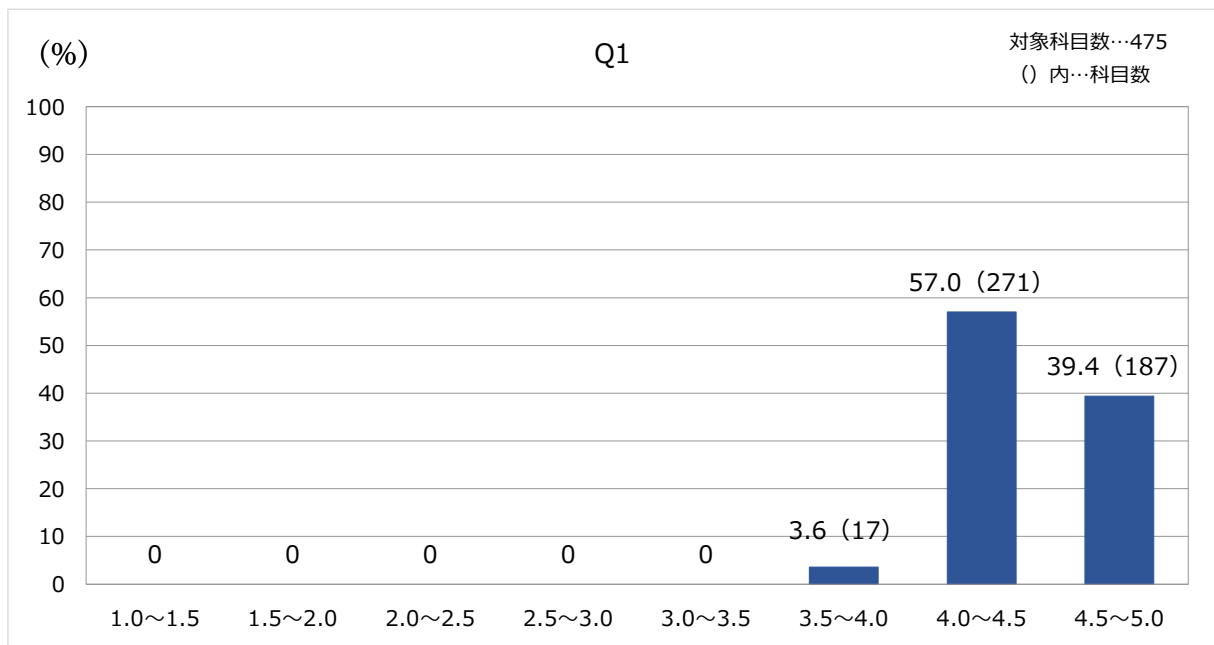


19) 【1年第二外国語】 (57 科目)

20) 【2年第二外国語】 (22 科目)

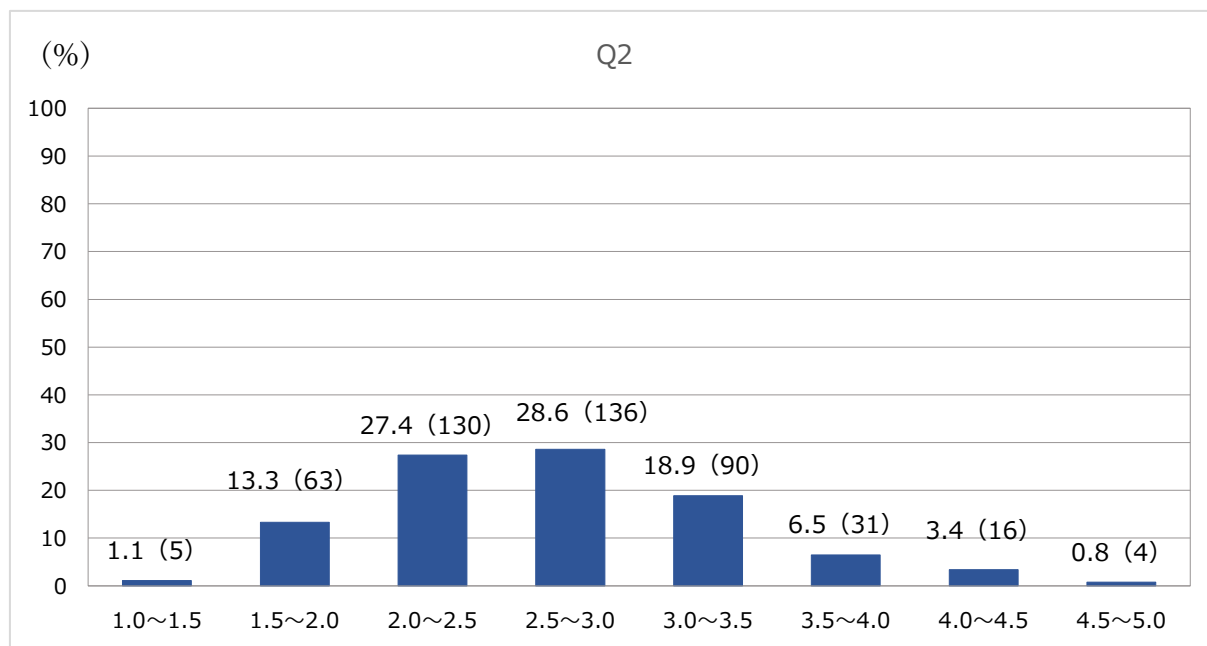
[学生自身に関する事柄]

対象科目…475 【 ( ) 内…科目数】



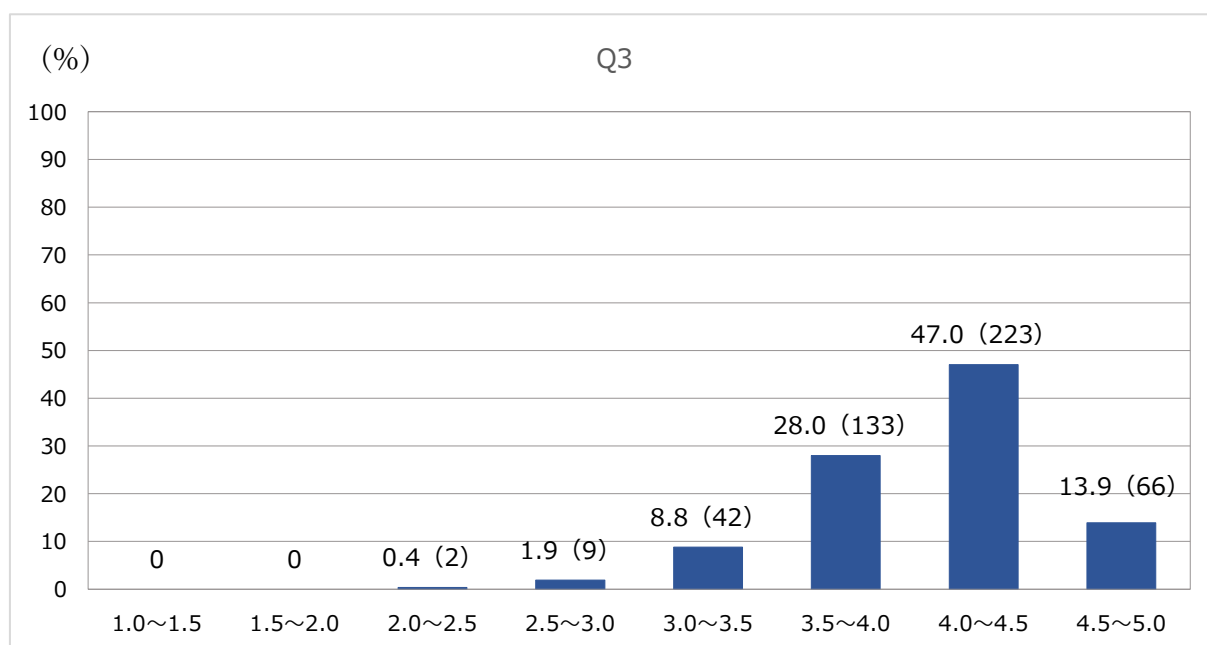
Q1. この授業への出席率はどのくらいでしたか。

- |               |                      |               |
|---------------|----------------------|---------------|
| 5. すべて出席した    | 4. 1~2度欠席したがほとんど出席した | 3. 3分の2程度出席した |
| 2. 3分の1程度出席した | 1. ほとんど出席しなかった       |               |



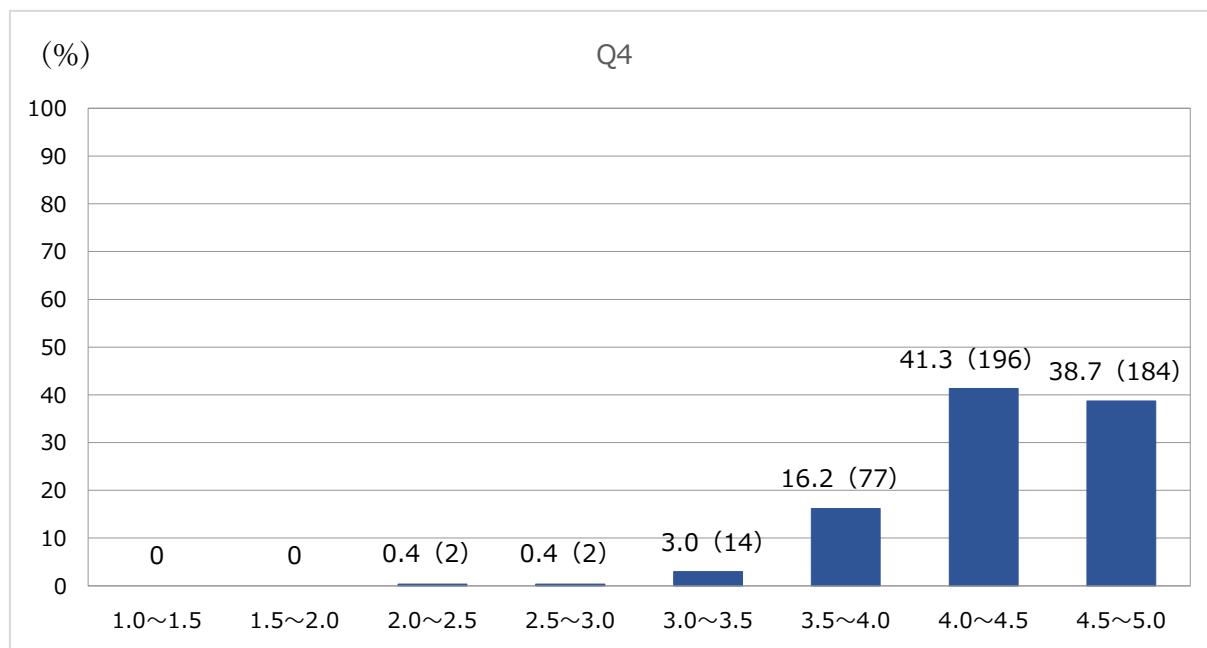
Q2. この授業のために平均何時間程度、予習・復習をしましたか。(本やインターネットで調べるなども含む)

5. 2時間以上      4. 1～2時間      3. 30分～1時間      2. 30分以下      1. 0分



Q3. 受講前からこの授業の内容に興味・関心があった。

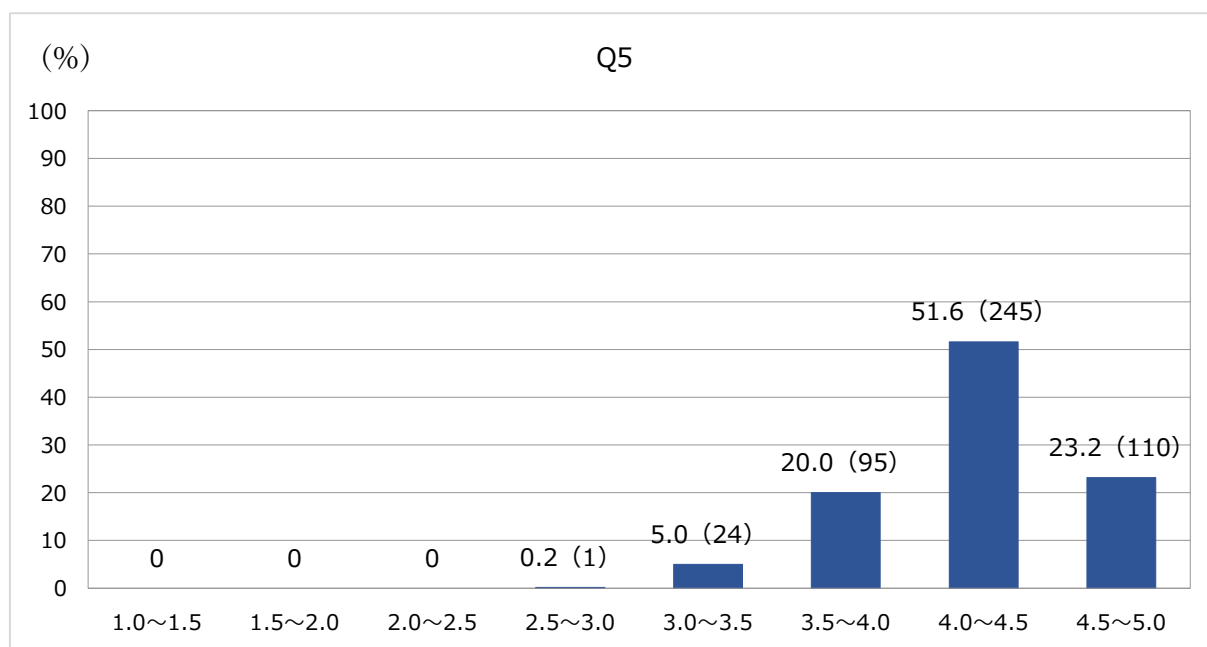
5. よくあてはまる      4. ある程度あてはまる      3. どちらともいえない      2. あまりあてはまらない  
1. まったくあてはまらない



Q4. 総合的にみて、この授業に満足した。

5. よくあてはまる      4. ある程度あてはまる      3. どちらともいえない      2. あまりあてはまらない  
1. まったくあてはまらない

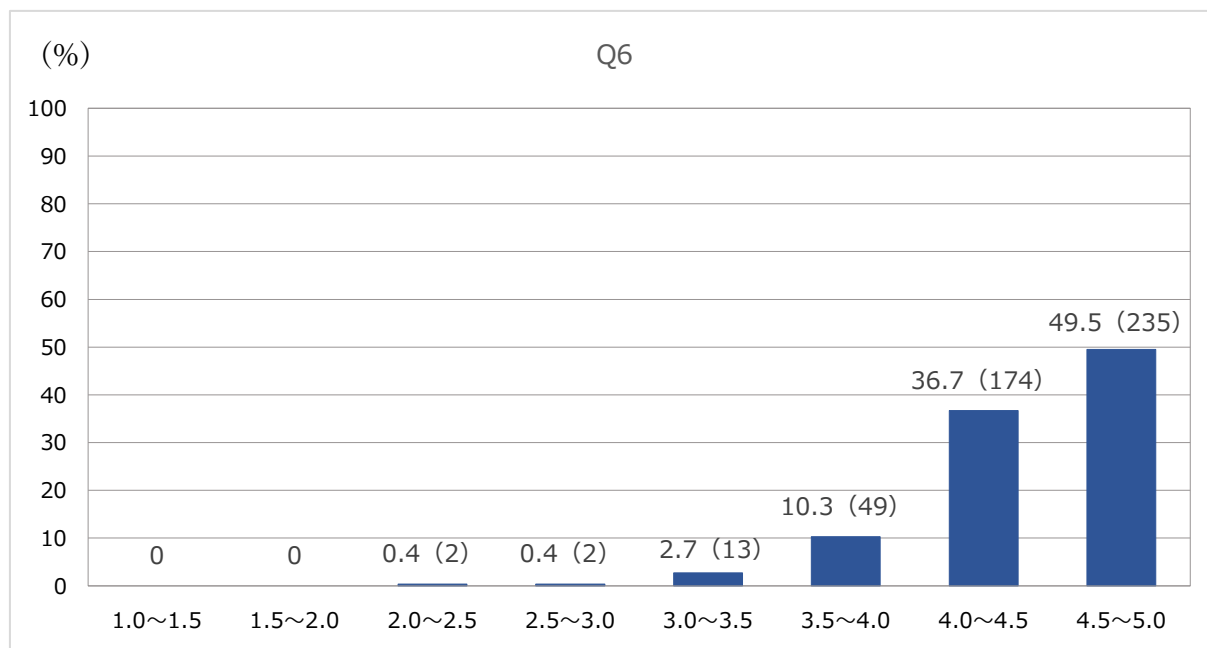
[教員に関する事柄]



Q5. シラバスの記載内容は、この授業を受講するうえで役に立った。

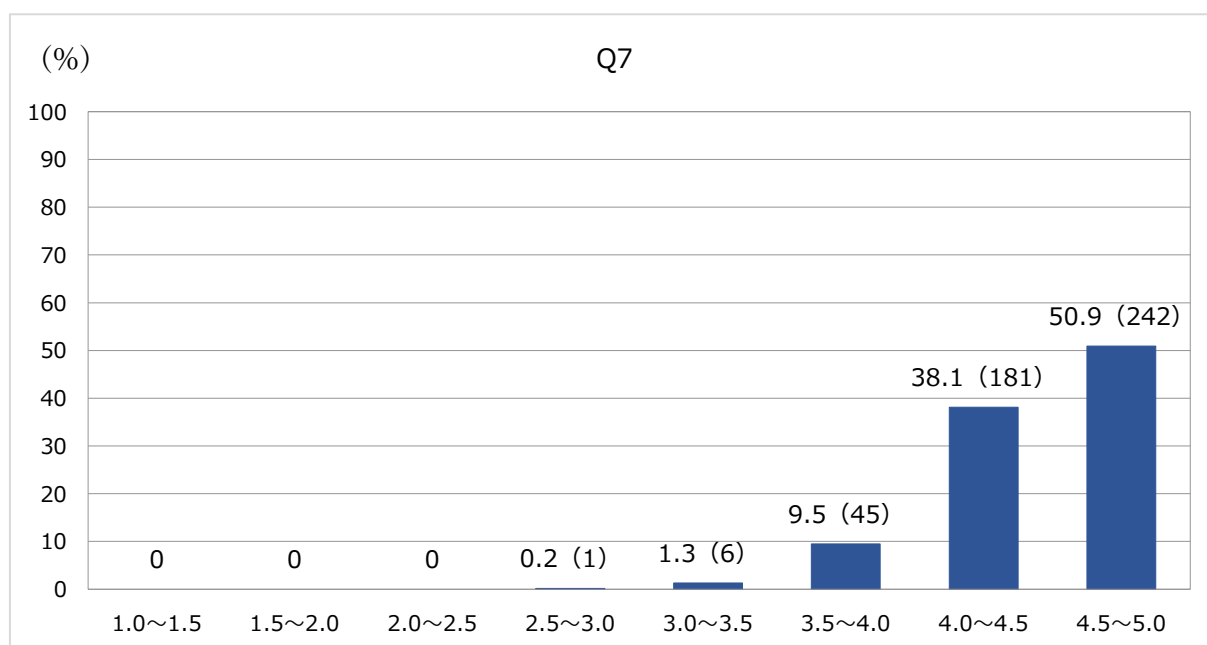
5. よくあてはまる      4. ある程度あてはまる      3. どちらともいえない      2. あまりあてはまらない  
1. まったくあてはまらない





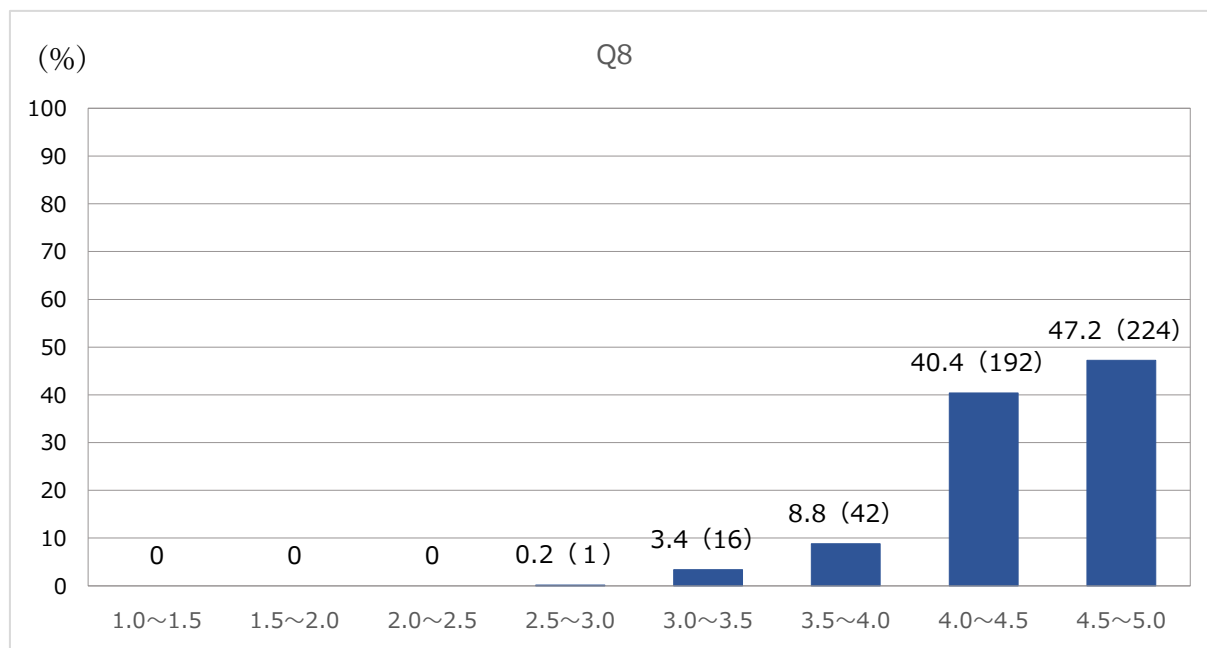
Q6. 教員の説明の仕方、話し方はわかりやすかった。

5. よくあてはまる      4. ある程度あてはまる      3. どちらともいえない      2. あまりあてはまらない  
1. まったくあてはまらない



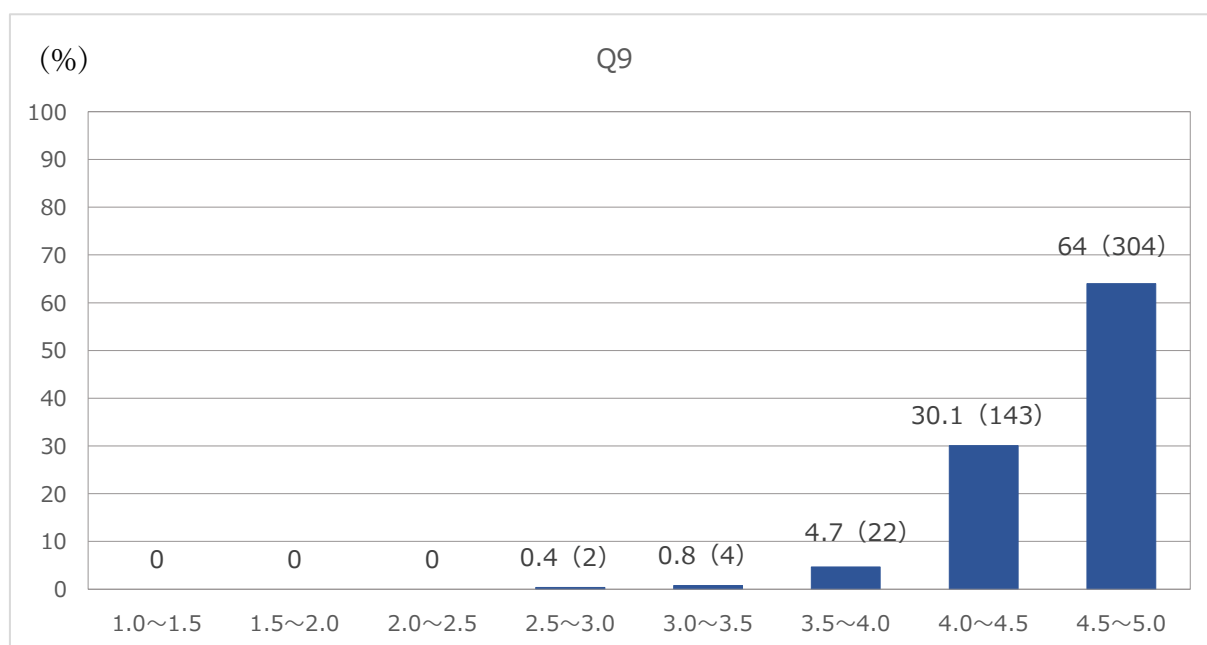
Q7. 授業中に使う教材（テキスト・配布資料・映像など）は学習の役に立った。

5. よくあてはまる      4. ある程度あてはまる      3. どちらともいえない      2. あまりあてはまらない  
1. まったくあてはまらない



Q8. 毎回の授業内容の分量や速度は適切だった。

5. よくあてはまる      4. ある程度あてはまる      3. どちらともいえない      2. あまりあてはまらない  
1. まったくあてはまらない



Q9. 教員の授業運営（質問や発言の十分な機会、私語の注意など）は適切かつ公正だった。

5. よくあてはまる      4. ある程度あてはまる      3. どちらともいえない      2. あまりあてはまらない  
1. まったくあてはまらない

## 2019年度 授業報告書概要

### 1. 授業報告の方法、件数

2019年度に実施した授業を踏まえ、その実施内容や今後の検討課題を専任教員から報告してもらった。本年度の報告授業件数は99件で、専任教員のほぼ全員から回答を得た。

### 2. 授業報告内容

報告を求めた内容は次の通りである。

- ・授業における目標達成度
- ・目標達成にとって効果的だった方法・工夫
- ・教室の設備に関する課題
- ・教員個人が取り組むべき内容（効果的な授業方法・運営）
- ・学生の積極的取り組みを促すために効果的な授業方法・工夫
- ・学科や大学全体として取り組むべき内容
- ・授業評価に関する意見

### 3 結果の概要

多くの教員、授業から積極的かつ具体的な報告があった。詳細は個々の記述に譲るが、全体として、かつての黒板を使った一方向的な授業の形式から、視聴覚教材、オンラインの活用、グループワーク等の学生参加方式への転換が明確化される中、授業スキルの向や教室環境の整備が求められている。今回の報告を参照しつつ、グループワークや課題解決型授業の運営に関するFD研修会の実施や新たな授業空間づくりのためのキャンパス整備等を進めていく必要がある。

#### (1) 目標達成度

99件の報告のうち、「達成できた」が4割弱、「ある程度達成できた」が6割と、多少の課題は残しているものの、シラバスにて設定した授業目標は概ね達成できたとの評価であった。

#### (2) 目標を達成する上で効果的な授業方法

最も多かったのが「レジュメなどの配布資料」を工夫することで、8割がこの項目をあげていた。次いで、「パワーポイント」が6割、「視聴覚教材」が5割、「文献などの資料・教材」が4割強と続いており、まずは、学生に教員が提示する教材の整備が重要であるという認識が強い。また、「授業内での課題」「プレゼンテーション」「グループディスカッション」「グループワーク」も4割強があげており、教員の努力とともに学生の授業参加を促す取り組みも効果をあげていると考えられている。その他、少数ながら「ロールプレイング」「ディベート」などを取り入れ、効果を感じている授業もある。さらに、「Sophie、Google ドライブ等の学内システムの活用」「ICTツールの活用」も

2割から3割があげており、情報環境を整えることが、今後の授業の幅を広げる上で有効であることをうかがわせる。

### (3) 教室設備の問題点

自由回答により34の授業に関して課題が指摘された。多くが教室内のPCやDVD、プロジェクター等の視聴覚機器に関する問題点で、使い勝手に関して、輝度の低さ、画面が小さい、解像度が低すぎる、モニターが小さいといった点が指摘されている。

### (4) 教員が個人として取り組むべき課題

46件について回答があったが、それぞれの授業の内容に応じて具体的な振り返りがなされていた。中でも目につくのが「グループワーク」「グループディスカッション」などで、学修を深める他、単調になりがちな講義にメリハリをつける効果が期待されている。ただ、その運用に関しては、特定の学生への負担やディスカッションが苦手な学生への配慮など課題も指摘されていた。

### (5) 学生の積極的な取り組みを促すために効果的だと思われる授業方法

61件について回答があった。授業内での「グループワーク」「ペアワーク」への言及が目立ったが、その運用に関してはそれぞれ独自の工夫も見られた。その他、課題の提示と添削や、アクションペーパーの活用などが見られた。後者に関しては、リアクションペーパーを個人の授業記録（ポートフォリオ）とするなど斬新な取り組みも紹介されていた。今後、電子媒体などの利用によって、こうした工夫は広がっていくものと考えられる。

### (6) 大学として取り組むべきこと

34件の回答があり、教室におけるPCや視聴覚設備の問題点が多くあげられた。また、グループワークやアクティブラーニングを授業に取り入れる例が増えていることから、対応できる教室環境の整備も求められている。この他、学生のニーズの多様化への対応のために、教員の負担軽減などを求める声もあった。

### (7) 授業評価への意見・提言

11件から回答があり、複数から、授業評価をどう授業改善に活かすかの方法を検討すべきとの意見があった。また、学生による授業評価の方法について、記入のための時間的な余裕やプライバシーへの配慮の面から、オンラインの活用を求め声もあった。

### (8) その他

その他として15件から回答があった。これまでの設問への回答を補足、補完する内容が多かった。